

栃木県南地域水道問題全国集会報告

2018年11月25日9時からの総会を栃木市国府公民館で終えてすぐ、同公民館で13時15分から開催された全国集会に参加しました。

集会は次のプログラムに沿って、進みました。



開会あいさつ

大木一俊弁護士 主催者代表

記念講演

「新規水源開発事業の不合理性を検証する」

- 講師：太田正先生（作新学院大学名誉教授） -

「鬼怒川水害と西日本豪雨災害」

- 講師：嶋津暉之氏（水源開発問題全国連絡会共同代表）

現地報告 高くてまずい水はごめんだ！

「三ダム訴訟・思川開発事業について」

大木一俊弁護士（三ダム訴訟弁護団）

「ダムのための無駄な利水計画」

早乙女正次氏（元栃木県職員）

栃木市・下野市・壬生町住民の取り組み

「思川開発事業と栃木市の水道水を考える会」の主な取り組み

大塚育子氏（思川開発事業と栃木市の水道水を考える会）

「思川開発事業（水道水源への表流水導入）に関する下野市での動き」

益子友幸氏（下野の水道水を考える市民ネットワーク）

「壬生町の水と環境を守る会」活動報告

梁川典子（壬生町の水と環境を守る会）

意見交換

閉会のあいさつ

服部 有氏（栃木県南地域の地下水をいかに市民ネットワーク）

全国集会では、現在、私たちが抱えているダム問題を打開していくための情報の提供と考え方の提示がされました。栃木県では思川開発（南摩ダム）の水を県南3市町（栃木市、下野市、壬生町）に無理矢理使わせる県南水道用水供給事業が進められようとしています。3市町の水道は現在は最高の水道水源である地下水のみを使用しており、県の事業が強行されれば、水道水質の低下と水道料金の大幅値上げが必至です。3市町の皆さんが県の事業を阻止すべく、闘いを展開していることを熱っぽく語られていたのが印象的でした。地下水を南摩ダムの水に切り替える愚策を何としても中止させたい、それが私たち共通の思いでした。

太田 正氏、嶋津暉之氏、大木一俊氏、早乙女正次氏が講演で使用したスライドは、それぞれの方の了解のもとにこのページに掲載しましたので、ご活用いただければ幸いです。